

長崎キリシタン考(6) —禁教時代から復活まで—

長崎史談会 幹事 村崎春樹

元和の大殉教

長崎奉行は幕府の命により、宣教師、修道士や彼らを匿ったキリシタン55人を捕縛、大村の鈴田牢や長崎の牢に数年間拘置されていたが、元和8年(1622)8月5日西坂にて火刑と斬首処刑された。

この中には、3歳の子供2人、5歳の子供1人も含まれていた。

島原の乱と天草四郎の首

寛永14年(1637)10月25日益田四郎時貞(16歳)を総大将に有馬代官所を襲い、島原藩は一揆の鎮圧に失敗して島原城に籠城。数日後には天草にても一揆が勃発、唐津藩兵と激戦となるが富岡城を落城させることが出来なかった。さらに九州諸藩の幕府軍が駆けつけるにおよんで、一揆軍37,000人は原城跡に籠城した。籠城は翌年の2月28日まで続き、籠城軍全滅で幕を閉じたが、一揆軍の主力はキリシタンであった。幕府は、この一揆が幕府の大軍に対し4ヶ月もの長きにわたり抗戦したことに恐怖し、一層キリシタン禁教政策を徹底した。一揆軍鎮圧の事実をキリスト教(キリシタン)国であるポルトガルに知らしめる為、四郎他首謀者の首を出島表門前にさらした。

『長崎拾芥』によると

島原一揆張本 益田四郎首
同四郎姉首
同四郎姉婿大矢野小左衛門首
同監物首(有江監物)

以上首数四 出島前二獄門二掛ル

四郎徒黨数万ノ首舟、三艘積来り西坂二埋テ今嶋原塚トテアリ但首数三千三百

『長崎縁起略説 寛延元年』では

・然ニ明年寅ノ二月下旬落城ス 於彼地ニ亡スル者三万七千餘也 則大将時貞カ首并諸賊ノ首ヲ當地ニ

持来り出嶋ノ前左ノ木ニ梟首之南蛮人ニ見セシメ又其首ヲ以テ西坂ニ埋メテ塚ヲ築キ則今ノ首塚是也

大村郡くずれ

島原の乱が収まった20年後の明暦3年(1657)長崎油屋町に住んでいた指物屋池尻理左衛門から「大村郡村矢次に天草四郎の生まれ変わりという神童があらわれて、萱瀬村の山奥に不思議な絵を隠し持って、実に奇妙な術を説く」との話を大村郡村兵作から聞いたとの訴えがきっかけで長崎奉行から大村藩へ探索の指示がなされた結果。天草四郎の再来とされた子は六左衛門といい、萱瀬の仏の谷にある十畳敷きほどの岩陰でキリシタンの信仰を多くの信者と共に行っていた事実が判明。捕縛された



キリシタンの数は郡村、萱瀬村、江の串村、千綿村合わせて603人となり、そのうち99人は釈放、獄死78人、永牢20人斬首406人となった。処刑地は大村131人、長崎118人、佐賀37人、平戸64人、島原56人であった。これにより、さらに大村藩のキリシタン探索はきびしくなり、大村から遠く離れた外海にしかキリシタンが潜伏できなくなった。(つづく)

お知らせ

長崎キリシタン考は次号よりしばらくお休みをいただき、去る7月13日～18日、原田博二長崎史談会会長の黄檗文化の研究「隠元禅師の中国での足跡を訪ねて」の旅が昨年引き続き行われましたので、その折に随行した長崎史談会の福田副幹事長による手記をご紹介します。乞うご期待!!